

知的財産事例

株式会社東洋高压

専門的な技術を活かしたオーダーメイド製品 顧客ファーストの姿勢から生まれた“こだわり”が強みに

事業内容

1981年設立（創業1974年）

- ・高温高压化学装置の設計・製作
- ・化学機械、理化学機械の設計・製作
- ・高压ガス特定設備、第一種压力容器等の反応容器及び真空用容器の設計・製作
- ・その他、上記各項に附帯する施工に関する一切の事業

知的財産権と内容

特許第6712694号	閉塞物除去方法
特許第6704587号	超臨界水ガス化システム
特許第6648350号	超臨界水反応装置
商標第6250567号	HPP\High Pressure Processing [∞] 超高压料理法
商標第5061040号	まるごとエキス

他 特許35件、商標権1件

(2025年3月現在)

ACTIVITIES & ACQUISITION IS INTELLECTUAL DATA



代表取締役社長 野口 琢史さん

先代の意志を継ぎ

オーダーメイドの高压化学装置を設計・製造

当社は、大阪の圧力機器メーカーに勤めていた先代が「潜水艦の部品を作れないか」と依頼されたことをきっかけに独立し、創業。結果的にその案件は断ることとなったものの、先代は「顧客それぞれの要望に沿って、ひとつの技術を追求する姿勢がビジネスになる」と勝機を見出し、一念発起したという。

野口現社長もその意志を受け継ぎ、2011年の社長就任後も高压を用いた実験装置を中心に、高压ガス保安法等に考慮しながらオーダーメイドで実験装置を設計・製造する事業を続けている。また、知財の活用にも意欲的で、主にクライアントである大学や研究機関、大手企業の研究部門とともに共同出願というかたちで知財を取得することで、特許をはじめとするライセンスの自社での使用を妨げないように取り組んでいるのが特徴だ。「共同出願は手続き面で複雑な部分はあるが、その分他企業や機関の知識・技術をもとに特許の質を高められることに加えて、出願や権利維持に関する費用負担を軽減できるというメリットが大きい」と野口社長は話す。

近年では“未利用特許”に注目した 『まるごとエキス』が話題に

初めて自社で特許を取得したのは1981年、可燃性のガスが発生する地域において熱処理が必要となった際、

爆発を防ぎながら適切に作業を行える『加圧反応釜の防爆型電気炉』を開発した時のことだった。「これは現在では再現が難しいほど高度な技術であるが、顧客の要望に真剣に寄り添おうとした結果、特許の取得にも繋がったと考えられる」と野口社長は語る。また、近年メディアに取り上げられた装置が『まるごとエキス』である。これは素材に対して簡単に高压の負荷をかけることができる装置で、外圧試験や、新たな食品エキスの開発、酒・肉類の熟成など、幅広い用途で使用可能だ。元々は「広島県食品工業技術センター」に「圧力を使用した調味料の製造方法」という特許技術が“未利用特許”として眠っており、広島県が何とか活かせないかと公開した情報を当時の社長（野口現会長）が見つけた。その後、広島県に直接交渉し、装置の販売量に合わせロイヤリティを支払うという契約で特許の活用を実現した。現在は特許の権利存続期間が満了となり、商標のみの保有となっているが、営業活動においては過去の特許であっても信頼性の向上に一役買っており、今でも活用頻度が高い装置だ。また、従来の装置と比べて大幅な小型化に成功した結果、導入コストの削減にも繋がり、現在は個人の飲食店や小規模事業者まで販路を開拓しているという。

特許の効果を実感する一方であえて秘匿する技術も

この他にも当社では『バイオマス処理システム』や

『超臨界水ガス化システム』といった技術でも知財を取得しており、野口社長は「特許は“技術の証明”として、実績のある会社だというイメージにも結び付いている」と話す。また、自社で申請した特許の取得後に、ライセンスを使用させてほしいと問い合わせを受けたこともあり、権利の効果や存在感を実感しているようだ。一方、知財を有効活用するためには「取得するもの、秘匿するものを厳選する」ことも必要だと考えている。特許取得を前提にアイデアを考案するケースもあるものの、使用頻度や権利が及ぶ範囲などを踏まえ、あえて権利化せず社内ノウハウとして保護するなどの工夫も行っているという。

知財取得・活用における苦悩



このように、早くから特許をはじめとする知財を活用してきた当社だが、数年前までは生産規模の問題もあり、研究室向けの製品がメインで、開発しても実用化されないままのケースが多いことが課題となっていた。そこで

2018年、大型設備の製造が可能な工場を新設。研究段階から工業化設備までワンストップで依頼を請けられるようになったという。「当社の対応力が向上したことで、今後は技術の可能性もさらに広がっていくのではないかと期待している」と野口社長は語った。

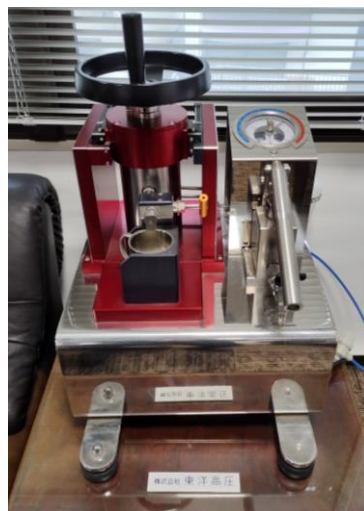
知財取得を目指す経営者へのメッセージ

注目!

「特許を取るということに関しては、“アイデア”が一番重要だと思う」と野口社長は話す。「どういうものが技術になるのか、正直調べてみないと分からない部分もある。まずは発想力をもって新たな技術を生み出し、類似した技術がないかを確認してみる。そして独自性を見出せれば、ぜひ弁理士等の専門家に相談して欲しい。そこから初めて取り組みをスタートできる」と。また、「どこかにこだわりを持ちながらやっていけばそれが強みになることもある。当社にとって、それが“技術”だ」とも併せて語った。



数多くの表彰楯が並ぶ棚。当社の歴史と長年培われた技術力がうかがえる



「まるごとエクス」は用途に応じて複数の形式が存在。画像は手動のデスクトップ型



知的財産活用のポイント

知財戦略と開発・技術を分業することで 高い業務効率と特許の積極的な活用を実現

当社の知財に関する取組みについては、主に野口社長自らが対応し、状況に応じて先代の野口会長や従業員が加わる、というかたちである。先代によって築かれた知財戦略の枠組みが、現在まで受け継がれているようだ。もちろん、従業員が知財に携わ

ることもあるが、基本的に開発者や技術者は担当業務に集中できるよう、環境を整えているという。このように、各社員が最高のパフォーマンスを発揮できる仕組みを工夫し、知財の適切な活用と開発力を両立している。今後、より多くの社員が特許出願に携わるようになった場合には、全社的な知財研修なども検討していく方針だ。

COMPANY DATA

取材：2025年3月

企業名：株式会社東洋高圧 所在地：広島県広島市西区楠木町2-1-22 電話番号：082-237-6255

URL：<http://toyokoatsu.co.jp/> 創業：1974年 資本金：1000万円 従業員：35名

